

診療科 乳腺外科		分類 early breast cancer		1 / 1						
レジメンNo. 09-SB002		休薬期間 20日		最大回数 10回						
レジメン名称 EC療法										
RpNo	薬剤名/手技/コメント	1回投与量	速度指示	day(1)	day(2)	day(3)	day(4)	day(5)	day(6)	day(7)
01	持続末梢静脈 維持ルートから 生理食塩液PL(フソー) 100ml ルートキープ	1瓶		00:00						
02	持続末梢静脈 維持ルートから 100ml/h/30分かけて デキサート注射液「6.6mg-2mL」[デカトロン] デキサート注射液(1.65mg-0.5mL)[デカトロン] 生理食塩液PL(フソー) 50ml	1瓶 2A 1瓶		00:00						
03	持続末梢静脈 維持ルートから 300ml/h/10分かけて アロキシ静注(0.75mg-5ml) 生理食塩液PL(フソー) 50ml	1瓶 1瓶		00:00						
04	持続末梢静脈 維持ルートから 300ml/h/10分かけて Ibuprofen塩酸塩注射用「50mg」[ファルモルビン] 5%ブドウ糖液 50ml 75~90mg/m2	90mg 1瓶	/m2	00:00						
05	持続末梢静脈 維持ルートから 200ml/h/30分かけて 注射用エンドキサン「500mg」 生理食塩液PL(フソー) 100ml	600mg 1瓶	/m2	00:00						
06	持続末梢静脈 維持ルートから 生理食塩液PL(フソー) 50ml フラッシュ	1瓶		00:00						
―― 終了 ――										
レジメンコメント(医師専用)										

イーシー EC療法について

EC療法とは、エピルビシン（エピルビシン塩酸塩；Epirubicin）とエンドキサン（シクロホスファミド；Cyclophosphamide）の2種類の抗がん剤を組み合わせた治療法です。抗がん剤の英語表記の頭文字をとって、EC療法と示されます。

3週間ごとに点滴の治療を行います。副作用や血液検査の結果によっては治療の期間が長くなることがあります。

《標準的な治療スケジュール》

1サイクル目			2サイクル目			3サイクル目			4サイクル目		
1～7日	8～14日	15～21日	1～7日	8～14日	15～21日	1～7日	8～14日	15～21日	1～7日	8～14日	15～21日
1週目	2週目	3週目	1週目	2週目	3週目	1週目	2週目	3週目	1週目	2週目	3週目
点滴投与日			点滴投与日			点滴投与日			点滴投与日		

《1日の治療の流れ》

薬の名称（成分）	薬の作用（注意事項）	時間
①内服薬 アプレピタントカプセル	吐き気止め （治療の当日は125mgを飲みます。）	点滴 開始前
②注射薬 生理食塩液	点滴で薬を入れる血管を確保する	
③注射薬 デキサート （デキサメタゾン）	吐き気止め アレルギー予防	約30分
④注射薬 アロキシ （パロノセトロン塩酸塩）	吐き気止め	約10分
⑤注射薬（赤色） エピルビシン （エピルビシン塩酸塩）	がん細胞の増殖を抑える （赤色をしているため、点滴後は尿や汗に色がつくことがあります。）	約10分
⑥注射薬 エンドキサン （シクロホスファミド）	がん細胞の増殖を抑える （薬は主に尿から排泄されますが、尿に長時間たまり、炎症を起こすことがあります。多めに水分をとり、いつもより多く尿を出してください。）	約30分
⑦注射薬 生理食塩液	点滴管の中の薬を全て体の中に入れる	約5分

《点滴の翌日から必ず飲む薬》

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
アプレピタント カプセル80mg		吐き気止め	点滴の翌日から2日間、 朝食後に1カプセル飲んでください。
デカドロン錠4mg ※0.5mgの場合もあり	 包装形態  錠剤	吐き気止め	点滴の翌日から3日間（2日間の場合もあり）、 朝食後と夕食後に飲んでください。

《主な副作用》

吐き気（悪心）・嘔吐

EC療法では、吐き気止めの飲み薬と注射薬を予防的に使用します。それでも吐き気（悪心）や嘔吐の症状があらわれることがあります。治療当日に多い症状ですが、翌日以降にみられることもあります。もし、症状がでたら下記の対策を参考にしてください。また、症状が強い場合は、次回に吐き気止めの薬を調節することができますので、医師に相談しましょう。

- 対策1：予め医師から処方された吐き気止めを飲みましょう。
- 対策2：なるべく水分をとるようにしましょう。
- 対策3：食事は消化の良いものを少量ずつ数回に分けて食べるようにしましょう。
温かい食べ物は冷やしてから食べるようにしましょう。

脱毛

治療を開始してから2～3週間後に髪の毛が抜け始めます。
治療が終了してから2～3か月後に再び生え始め、半年くらいで回復してきます。

- 対策1：体調のいいときに、かつらや帽子を準備しておきましょう。
- 対策2：シャンプーは刺激の少ないものを使いましょう。

感染症

血液の成分のひとつに、白血球があります。白血球は身体を細菌から守る役割をしています。しかし、治療によって白血球の減少がおこるため、細菌やウイルスに対する抵抗力が弱くなり、感染症にかかりやすくなります。
白血球は治療後1～2週間で最も低くなりますが、その後、少しずつ回復していきます。
もし、37.5度以上の熱が出た場合は下記の薬を飲んでください。
それでも症状が治まらない場合は、病院に連絡して下さい。

まずは日常生活で感染を予防することが大切です

- 対策1：手洗いうがいをこまめに行いましょう。
- 対策2：人ごみに出るときにはマスクをしましょう。

もし、感染症にかかってしまったら（37.5度以上の熱が出た時）

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
レボ・フロキサシド錠 500mg		抗生物質	37.5度以上の熱が出たとき、1日1回、1錠を飲んでください。 飲み始めたら処方された日数分、飲み切りましょう。
カロナール錠 300mg ※200mgの場合もあり		解熱・鎮痛	熱が出たとき、または痛みがあるとき、1回1錠飲んでください。4～6時間の間隔をあければ追加で飲めます。

《副作用が出始める時期》

※これらの副作用が全て出るということではありません。

吐き気（悪心）・嘔吐、食欲不振
便秘・下痢
アレルギー反応、点滴部位の痛み

遅延性の吐き気（悪心）・嘔吐
脱毛
口内炎、感染症、全身のだるさ

味覚異常
爪の変化、色素沈着
胸の痛みなど

治療中、当日～数日

数日～数週間

数週間～数か月